

# 紙版 ハコブネ×ブックス vol.57

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



## Y田A子に世界は難しい

作者 大澤めぐみ  
出版社 光文社  
発行 2021年2月  
ISBN 978-4334791551

review



ロボット工学研究者たちの気まぐれで生み出されてしまった**高機能AI**を搭載した**ロボット**。その開発資金が不正であることが発覚して廃棄処分になるところを研究室の学生、和井田秋彦に救われて、彼の実家に家族として迎えられます。十五歳女子の容姿をしたロボットは、和井田瑛子（A子）と名乗り、高校一年生として学校に通いはじめます。実は**なにもやることなく、暇をもてあましていた**からです。友だちづくりやバイトや部活にも挑戦する瑛子は人間としての経験を積んでいきますが、目的も役割もなく、なにかに役に立つわけでもない自分に**焦燥感**を覚えるようになります。一方で、和井田家の人たちのおおらかな**人間性**が、こみいった問題を解決していきます。人間とはこうでなければいけないなんてことはないという真理が瑛子を通して語られていきます。



## つくられた心

作者 佐藤まどか  
出版社 ポプラ社  
発行 2019年2月  
ISBN 978-4591162057

review



いじめなどの見えにくい問題から生徒の安全を保障するために、教室を監視する。それが**ガードロイド**の役割です。理想教育のモデル校で実施されたのは、**精巧なアンドロイド**を生徒として教室に紛れ込ませるといふ施策でしたが、**誰がガードロイドに安心しながらも、誰がガードロイドのかに生徒たちの関心は向かいます**。外見が綺麗だったり、記憶力が良すぎる子はもちろん、言うことが平凡過ぎる子もまた疑わしく思えてくる。生徒のミカは仲良くなった鈴奈の部屋に遊びに行った際に、彼女がガードロイドではないかという証拠を見つけます。友だちだと思っていた子の心がつくられたものであったとしたら、その優しさを信じて良いのか。AIにも本物の感情はあるのかとミカの気持ちは揺れます。物語は様々な命題を提示しながら、意外な結末へと向かっていきます。

特集  
わたしはロボットではありません  
ありませぬ



## 紙版「ハコブネ×ブックス」vol.57

2026年6月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作、語々を受賞。



お問合せはこちらから。

### 特集

# わたしはロボットではありません

わたしは**ロボットではありません**と口にチェックすることは、大いなる**人間宣言**です。ロボットのような人とは、かつては冷徹で杓子定規な人の比喩でした。ところが**進化したAI**は、人を励まし、寄り添い、生きる力を与えてくれることもあります。それでは、ロボットではない自分は、どれほど**人間らしい存在**なのか。友だち**ロボット**が家庭や学校にいる遠くない未来を物語は予見します。人間性の本質を語る純文学や、ロボットかも知れない同級生の言動に、人間性を見出すYA作品が誕生しています。頭脳やボディが機械仕掛けでも、その**存在意義は人間に近づいている**のです。さて、人間はどう進化するべきでしょうか。



クララとお日さま  
カズオ・イシグロ  
早川書房 2021年



## 教室のハルモニア

作者 辻みゆき  
出版社 さ・え・ら書房  
発行年 2025年12月  
ISBN 978-4378015712

review



中学二年生の新学期。春の体育祭も終わった頃に転入してきた**九十九友花**(つくもともか)は、平凡な容姿で、勉強や運動がとくにできるわけではなく、**意思表示をせず、はっきりと意思表示をする女子**でした。友花は教室でどういうポジションにつくのか。そんなことばかり気にしている女子たちに、誰ともなくフラットに親しくしようとする友花の態度は不興を買い、イジられる対象になります。心配して友花の家を訪ねた同級生の芽生(めい)は、父親から友花が人間ではなく**AIロボット**であることを聞かされます。秘密を一人で抱えた芽生は、**あるはずもない友花の心**を、その言動や態度から想像します。ただ友だちを作ろうとしたロボットは、この歪んだ教室をどう見つめていたのか。芽生が友花の気持ちを想像することで**人間の純粋な心性が浮かび上がります**



## 嘘吹きアンドロイド

作者 久米給美里  
出版社 PHP 出版  
発行 2024年2月  
ISBN 978-4569881546

review



中学一年生の女子、理子(りこ)は同級生で幼馴染の鞠奈(まりな)から、三組の男子、田中瑠卵(るう)が、自分は**高機能AI**を搭載した**アンドロイド**であるとSNSに投稿したと聞かれます。整い過ぎたCGのような顔をした瑠卵はたしかにアンドロイドっぽい。とはいえ、それを嘘だと考える正義感の強い理子は、こうしたことから、いじめがはじまること警戒します。瑠卵と親しくなった鞠奈を通じて、彼と話をしようになった理子は、**彼がなぜアンドロイドを自称するのか**、その真意を知りたいと思います。人一倍、給食を食べるし、ペットも飼う、まったく人間らしい瑠卵。自分はアンドロイドとして社会実験を続けているのだという瑠卵の言葉に理子は翻弄され続けます。人間とAIロボットはどこが違うのか。子どもたちは思考を重ね、問答を通して、**人間的らしさと何かを見出そう**とします。



わたしは少女型  
ロボットだったころ  
(石川宏千花)  
偕成社 2018年

ある日、自分が**ロボット**であることに気づいた中学三年生の女子、多鶴。自分はロボットだといふ多鶴の言葉を、同級生の丸嶋君は**真摯に受けとめて**、現在の技術で精巧なロボットを作り出すことが可能なか二人で調べ始めます。**真実と空想の狭間の世界線**に現代の物語はあります。